

幼稚園教師 の成長

幼稚園に第一歩を

ふみ出すに当って

— 三月 中旬 —

まだまだ遠い事のような気がしていたのに、いよいよ私も幼稚園の先生としての第一歩をふみだそうとしています。期待と不安の入り混った複雑な気持ちで、私は今、幼稚園の生活をあれこれと心に画いています。

私が、絵を画いたり、歌をうたったり、童話を心に画いたりすることが好きで幼稚園の先生になりたいと思ったのは中学生の頃でした。私には自然と幼稚園の先生になるというイメージができてしまつて、将来の生活を夢に見、空想する時にも子ども達を抜きにして

これは、学校を卒業してはじめて幼稚園の先生になった教師の成長の記録です。幼稚園では子どもが大きくなっていくばかりでなく、先生も子どもとともに成長してゆかなければなりません。ここにはO先生が幼稚園に就職する前から始まつて、三月、五月、七月、九月、十一月と、その時どきの感想をつなげてあります。四月になって先生も幼稚園に適應してゆかなければならない、そして一人前の先生に成長してゆく努力の跡をみる事ができると思います。また幼稚園の側でも新しい先生を受け入れて、さらに勉強してゆくための機会をつくろうとしておられるのをうかがうことができます。

は考えられませんでした。しかし今思うと、それは幼児を教育という面からとらえていたのではなくて単なるロマンチックな深い意味のない考えにすぎなかつたように思います。大

学に入って私は多くの事を学びました。サークル活動をし、小学生の家庭教師をし、お休みのたびにあちらこちらを旅行し、試験に苦しめられ、友達と深く人生論を語り合い、政治的な問題を考え……そしてそれらは幼稚園の先生になるためには無意味のようであるけれども、私に現実的な目を開かせ、本当の教育というものの姿を覚えてくれたような気がします。以前に画いていた子ども達あの夢のようなイメージが今私の心の中に、更にはつきりとした形でよみがえってくるのです。

幼稚園が立派な教育の場であり、毎日の保育

がいかに大切であるかということからくる自信とよろこびは幼稚園の生活を知るたびに大きくなってゆくように思います。

いよいよ今年の春からは私も入園です。私はなによりも子ども達のよき友達になり仲間になりたいと思います。子どもの気持はそのまま素直に行動に表われてくるものですか、そこでは決して私自身のわがままは通用しません。先生がいつも楽しそうな明るい表情で子ども達の中にいる時、子ども達も本当に楽しく安心していられるでしょう。「おはよう！」と言って子ども達の肩をポンとたたき、すがすがしい朝の空気の中を園の庭中走りまわっている姿は想像するだけでも楽しいことです。

また、私が一番望んでいることは、子ども

達にのびのびと自由な生活をさせるということとです。その中からはおのずと創造的な意欲が生れ、おとなには考えもつかないような表現が音楽リズムの面にも絵画製作の面にも表われてくることと思います。このような創造的表現の面で幼稚園は一種特別な意味を持つところであり、たいへん重要な所であると思います。

知らぬが仏で私には幼稚園に対する期待が山積みされています。しかし同時に未知の世界へ近づく不安は日に日に大きくなってゆきます。今までは何の心配もなくのんきに生活してきましたが、これからは、たくさんの子ども達の全てをあくまで人間としてその責任はたいへん大きなものです。細かい事に気づかずに行ったり、むちゅうになると他のものへ目がとどかなくなってしまう……そんな自分の欠点が今更のように、心にくい込んでくる感じがします。

しかしともかくやってみよう！ 幼稚園での子ども達の生活こそ、もう決して他人ごとではなく、私の手の中に入り、私のものとなって生きてこようとしているのです。この魅力は……それは私の前にのべた事の外にこんなことでもあるのです。幼稚園（一般に教育）

では、毎日の仕事が自分の勉強と結びついていくことです。（それは私にこの道を選ばせた一つの動機でもあります）私は普段の生活の中でいつも何か一つの研究テーマを持ちたいと思います。具体的に私は今、絵画を通して幼児の創造力をのびし、楽しい経験をさせたいという希望から、その方面の研究をしてみたいと思っています。どんなに小さな研究でも、子ども達の生活の中で一そう深められ、それがまた子ども達にとっても何かの役に立つものであったら、これ以上のよろこびはありません。

なんだかたいへんに大きなものになってしまいました。私はむしろのんびりした、そう、ちょうど今年のうしろのように急がず、あせらずに……そんな先生になりたいと思います。



一 一か月たったの雑感

——五月 上旬——

幼稚園の生活に入ってから一か月、気持の整理されないままに毎日をむちゅうで過ごしています。学校という大きな集団の中でただ自分の事だけ考えていた生活から急に幼稚園という限られた集団に入ってきて、しかも今度は先生という責任があるのですから、何か急に手も足も出なくなってしまうような気がします。私の園はひとりの先生が一つのクラスを受け持つというのではなく、四人ずつの先生が各々年長組、年少組にわかれて平均して受け持つようになっていきます。そのため、前からいらっしやる先生がたをたよってしまっていて、自分から自主的に動いていけないのが残念です。

それでも近頃になってやっと、毎日の生活がどのように動いているのだろうかということとは、つかめてきたような気がします。子どもの上ばきがそろっているかしら？ なくなっているクレパスはないかしら？ とそんな小さな事に気をつけて見ることが保育をしてゆくの案外根本的なことになっているのだということは今まで余り考えていないことでした。先生がたのそんな小さな心づかいが一つになって、子ども達が楽しく生活してゆくの幼稚園ということなのだと思えます。

私は年長組の受け持ちですので、子ども達もは幼稚園にもすっかりなれ、かえって私をリットしていきたくれます。子ども達の活動意欲には全く驚かされるものがあります。

先生はいつも子ども達を指導的に見ていなければならぬはずなのに、私はまだ子どもと同じ存在です。私はそうした中から早く子ども達を知り、各々の性格、問題になる点などをつかみみたいと思っています。

保育の面でも今まで思っていたのとずい分異ったことがたくさんあります。製作などをする場合でも、やりたい子どもから順に、自由遊びと平行してやっていきたいと思っても、人数や何かの関係でどうしても一斉に説明をしてから始めるといった方法になってしまいます。ある子どもは朝から固くなつて製作なんかしたくないかもしれません、砂場のダム作りの続きをしたいかもしれないのです。でも先生はどのように子どもの欲求を満たしつつ保育していったらいいのでしょうか。

また、こんなことがありました。A君は病気でしばらく幼稚園を休んでいました。その間に皆でこいのぼりを作り、子どもの日のお集りの後、それを持って皆大喜びで帰りました。

でもお休みしたA君のだけはありませぬ。先生は、作ってあげるより家に帰って自分で作るようにと紙と竹を手渡しましたが、A君はどうしても持って帰るときませぬ。

そんな時、「Aちゃんはお休みをしたのだから無くても仕方がないでしょう？ お家に帰って作りましょうね」といくら言いきかせても、それはおとなの理屈であつて子どもにはわからないことだと思ひます。そんな時、皆の帰つた後にでも五分か十分の間、先生が一しよになつて作つてあげて持つて帰したから、その方がずつと意味のあることだと思ひます。幼稚園というのはそんなちよつとした先生と子どもとの心の結びつきが基になつて楽しく、また教育効果も上つてゆくのではないかと思ひます。

全体をどのように導いてゆくのかということの外に、どんどのびてゆく子どもはよいとしても皆についてゆけない子ども、問題のある子どもには、その子には能力がないのだから、とか、その子は問題のある子どもだから、とかいうことで、かたづけてしまわないうで、少しでもよりよい方向に持つてゆくように努力してゆきたいと思ひます。現在の場合には全体をどうのばしてゆくかといつたような

面では、とてもゆきとどいている反面、そういった数人の子どもに対して、先生がたの目とどいていないような気もします。問題のある子どもをどのようにして集団の中に入れていくかということはいへんむずかしい問題だと思ひます。と同時にこれから先、そのような子どもに出合つた時、自分が努力して導いてゆくことはたいへんやりがいがあることだろふと思ひます。

私の幼稚園は郊外の緑につつまれた庭も大きな所ですので、子ども達ほとてもものびのびしています。どろんこになつて庭中を走りまわり、木登りをし、先生もその中に入つて子ども達と一しよになつて遊んでいるのが、私ほとても好きです。自由遊びの時、私は一番子どもの性質やくせや生活環境がわかるような気がするし、またそんな時、子どもの中から大きな意欲や活気を感じてうれしくなります。

自由遊びが劇あそびに発展し、砂場で十数人の子どもが集まつて作つたダムは立派な協同製作です。カリキュラムの中の音楽、美術などに関しては、私はこの園のやり方を早くのみ込んで、その中に自分なりの考えを織り込んでゆきたいと思ひています。絵画製作で

も音楽リズムでも、環境のせいもあってとてものびのびとやっているし、独想的なものが多いで、その事は私の一番のよろこびです。

幼稚園では先生と子どもの間は決して理屈や理論でつながれているのではなく、子どもは物事をたいへん感覚的に受けとめているように思います。しかしそこで先生はそれを一度理論づけて考えてみるのが大事だと思えます。幼稚園に来てその世界がたいへん小さなものであったことが私を不安にします。物がすべて感情的にかたづけられては、あまり進歩がないと思います。どんな事でも一度理論づけて考えてゆくとといった方向に幼稚園の先生全体がなっていたら持っている意欲がもっと効果的に出せると思います。しかし現在の私は、毎日保育が終ってその日の仕事をかたづけてホッととして帰り、その日を反省し、明日のことを考えるので精一杯です。しかしあせらずに子ども達と共に成長し、自身の生活も豊かになれるように、一日一日を真剣に保育していきたいと思えます。



夏休みになつて

——七月下旬——

夏休みに入つてホッとしました。

四月からずっと、ただむちゅうでやってきて、自分の仕事について反省してみる暇（余裕）がありませんでした。自分はいったい何をどのようにしているのだらう。それにもつと大切な、私の受け持つ百二十人の子ども達はいったいどんな状態なんだらう。ここ一カ月の間はそんな疑問の中で息づまるような思ひでした。

夏休みに入つて数軒の家庭訪問をしてみて、私はあまり子どもを知らないのにハッとさせられました。「家の子どもはいかががでしょうか？」という問に対して、私は自信を持って答えられる子どもはほとんどといていくらいありませんでした。一しょにいらした先生の応答をききながら、夏休みがすんではこの子の特に気をつけて見てあげよう!! とつくづく思つてしまいました。

自分では公平に見ているつもりなのに、私は、中間にいて皆と一しょに何でもできてし

まうような問題のないようにみえる子ども達のこと、とかくおろそかになっているので、これは私ばかりでなく全体的にみてもいえることだと思ひます。

私は幼稚園の先生になる前、ずいぶんいろいろと勉強してみたと思つていました。それが今までの三カ月間には本当にはつきりした形で表われることがありませんでした。自分はいったい何をしているのだらう。自分身の教育観などというものはつきりわかないでいる……そんなことを時々、不安に思ひ、また反面では、わけもわからずむちゅうでやっている中に案外吸収しているものもあるのかもしれない、などと自らなぐさめてみることもあります。

子ども達をしっかりと把握すること、保育の流れをつかむこと、保育がスムーズに行くように、保育室をととのえること、子どもにけがをさせないように気をつけること、などなど幼稚園というところは、何と忙がしいところなんでしょう。私は時々、自分がどこへ行っていいのか、何をしていいのか、立ち往生してしまふことがあります。私が一番気をつかう事はなんでもないことなのですがこん

なことです。それは、私は他の先生のアシスタントのような形で直接子どもを指導するのではなく、保育がスムーズに流れるように常に指導なさる先生について保育しています。でもなかなか勝手がわからず、どのようにしていいのか迷ってしまうのです。気をきかせたつもりでも、かえってそれが邪魔になったり、大切なことにも気づいていないのではなにかしら？ と心配したり、自分のした事が反対の結果になってしまった時など、なげきなくなってしまう。

園の方針には、私は案外すぐになじめたような気がします。しかし学生時代に学んだことを、幼稚園とはこういうものであるというような一つの概念みたくにしていたことを私はたいへん考えの狭いものであったと思います。この幼稚園は私の考えていたのと、ずいぶん異っているようです。たとえば造形活動においてはそうです。この園の造形の方針は私には全く新しいものでした。私は一年生として第一歩から出発するつもりでした。しかし今までの考えとの「くいちがい」はやはりたびたびありました。そんな時、私はそれをつっ込んで聞いてみるというようなことができませんでした。何か手きぐりでさぐり、考

えているのです。しかし私の幼児に対するのびのびとした、自分で物事を考え、創造してゆく人間を作りたいという最低限度の要求がかなえられて以上、私はまだまだこの園のやり方について深く知り、自分のものにしてゆく必要があると思っています。

私は幼稚園という世界に入って、この仕事に「教育」である、というあたりまえのようでも案外一般の人に認識されていないことを身をもって知ったことを、たいへんうれしく思います。

保育というものが一つの体形づけられた一貫したものであり、常に教育的でありたいということは私の一つの大きな期待でありました。しかしその反面、幼稚園はまだまだどこまでいっていないのではないかしら？ という疑問を常に持っていました。私は四才児から入園した五才児を受け持ったわけですが、そこにはやはり年少の時から計画や見通しがあるのです。特に造形活動や、音楽の面においては各々の発達の順序があり、それに添ってやっているのです。このことは私の知らないことでした。私はほとんどカリキュラムに関しては、経験のある先生がたにおまかせしてしまっています。

でもいつまでも甘えて頼ってばかりいないで自分でも、計画性を持たなければいけないと思います。



運動会が終つて

——九月下旬——

夏休みに入ってほとんど落ち着くひまもなく運動会の準備で追われていました。夏休みの間に、これといって勉強したわけでもありませんが、幼稚園の仕事に関しては、いくらかおとなになったような気がするのには気のせいでしょうか。それに子ども達との間の親密感も増してきたようです。私は夏休みの反省から、できるだけ、今まで自分とかけ離れていた子ども達に近づいてゆくように心がけてみました。幼稚園では、各々の子どもと私達先生との間に絶対的な信頼感がなければならぬと思います。そのためには、全体の中で皆一しょに接する場合の他に、各々の子どもと個々のつながりを持ち、友達関係のような

ものを作っておくことが必要だと思います。

私は登園の時に一しょになることや、帰りに遊んでいる所に会ったことや、保育中でも、その子が特別よくできたり、失敗したりすることや、そんなチャンスのをがさないように心がけ、各々の子どもと一対一でいつでも向かい合えるようにしておきたいと思っています。意識してそんなふうにしたせいか私は以前よりだいが子どもと仲良しになりました。

昨日の運動会が終るまでは、それでもやはり何かと忙がしい日が続きました。私の園では、子ども達が好んでする砂場遊びからヒントを得てそれを広いお庭で、自由表現するものや舞踊劇や、子ども達が自分達で作ったおみこしをかついだり、すべて子どもの中から出てきたもので子ども達自身で造ったものを作りしました。

実を言うと、私は計画を立てたときには、こんなことがいったいできるのかしら、とちょっと心配でした。しかし皆一しょにおみこしを造り、広いお庭で音楽に合わせて踊っているときに、決してこちらで無理をして、こういうものを作り上げよう——などというイメージを持たなくても、子どもの中から自然にわいてくる興味と力を総合して、それをま

とめてゆけばいいのだということに気がつきました。それを、一つの既成のものをおしつけがましく、教えこもうとするとそこには、かならず無理ができません。

私はここで、今までの自分自身のことを考えてみました。意識はしていませんでしたが、やはり、とかく物の結果にこだわって過ぎていたようです。一つのことを製作する場合でも、でき上ったものよりも、その過程がむしろ大切だったので。

運動会はとても楽しく過ごしました。けれど全く無我夢中で何が何やらよくわからなかったといった方が本音かもしれません。

運動会によって子ども達もいぶんのびてきたし、私自身も、きつとプラスになったところが多かったと思っています。



幼稚園にはまりこんで

——十一月中旬——

今ごろになると去年のことがいろいろと思いだされます。誰がどの幼稚園に行くとかいって友達同志でもそんな話でもちきりだったし、自分でもこんな状態でいたい先生になんかなれるのかしら？ と思い、本などを読んでみたり……。でも心は、全く幼稚園という職場にあるようなものでした。早いものであれから一年、十一月も半ばになってしまいました。運動会、遠足なども経験し、このごろは幼稚園の中もすっかり落ち着いてきた感じですが。子ども自身も見ちがえるよう大きくなり、年長組の子どもからは、「たくましさ」さえ感じます。

のびるだけ羽をのばし、何でもよくわかっているのに、悪いことをしてみたくなかったりして、あちらこちらでふざけてみたり、大声を發してみたり、園の中全体がちよつとぎわがわしているようです。私などは「先生」などと呼ばれたことは少なく、男の子は、各々「アダナ」めいたものをつけているようです。そんな事が案外子どもと親密な関係を作ったのか、このごろは、顔を見るところにお互に気が通じるような気がするがあります。

私にとってはこのような子ども達との関係はたいへん愉快ですが、いったい「先生」なる

ものはこういうふうなものであっていいのかしら？ とちよっと心配になることもありま
す。いかにも「先生らしい」のもきらいだ
し、そうかといって今の状態ではちよっと子
どもっぽ過ぎるかしら？

私は今まで、ほとんど子どもをしかったり
注意したりすることはありませんでした。私
は子どもにも注意を与えることが一番むずかし
い事のように思い、その必要のある時は他の
先生にお願いしたりしていました。しかしこ
のころは子ども達も十分に羽をのばし、それ
は願ってもないことですが、けじめのつけら
れない人間になってはこまるので、どうして
も注意したり必要のある時はしなかったりして
しまいます。子どもにも注意を与えること……
簡単なようで、今だに私にとっては一番むず
かしい事なのです。うっかりしたことと言え
ないし、自分に自信を持たなければならぬ
とつくづく思います。

今まで私はアシスタント的な仕事をしてき
ましたが、このころはたびたび、子ども達の
前に立って指導する機会があります。そんな
時は、やはり、その場その場で緊張し、つい
固くなってしまいます。途中で子ども達がさ
わいでしまったりすると、自分の気持が動揺

し、ますます混乱してしまいます。やはりま
だまだ心の余裕のなきを感じないでいられま
せん。

私は指導するたびに、一つ一つ新しいこと
を知っていくような気がします。そのたびに
必ず予期しない事が起ります。時には、前
もって予想していたのと全く異なる方向に流
れてしまうことがあります。そんな時には、
まだまだ子ども達を把握してゆく力が弱いの
だ、と反省します。

今ごろになって私は、幼稚園に行くという
事が、ごく自然の自分の生活である、という
気がしてきました。自分で言うのもへんです
が、いくらか板についてきたのかもしれない
ん。無理にがんばることもなく、無理に楽し
く装うこともなく、子どもと遊んでいる時も、
以前は、何かそのことに打ち込んでいないと
いけないような気がしていたのが、ずいぶん
楽に子どもの中に入れるようになりました。
たとえば、朝、園で子どもを迎える場合でも、
無理に大げさに笑顔を見せて、「おはよう!!」
と言わなくても自然にいつの間にか子どもと
話しているのです。そのせいか以前よりは疲
れなくなつたような気がします。

私の園では月に二回、先生達で、園内のゼ

ミを開きます。それは具体的な保育の問題を
話すのではなく、一つの研究テーマをきめて
それについて討論します。その時は園長先生
もご一しょで、楽しいうちにも勉強になる話
がたくさん出ます。私はこのゼミがとても楽
しみます。このゼミは最近になって始めたも
のですが、このようなことは簡単なようにな
かなかできない事ではないでしょうか。

幼稚園の先生になって、私は気のせいか、
物事をじっくり考えろということができなく
なってきたのではないかしら？ と思います。
ただむちゅうでその日その日の仕事に追わ
れ、家に帰ると本を読むのもいやになってし
まいます。そのためにも私は園内のゼミで日
ごろ無意識にでも考えていることを話し、人
の意見を聞き、自分の考えをまとめてみるこ
とは必要だと思えます。

私は今の環境にたいへんめぐまれていると
思っています。そのためにいつまでも甘えて
しまつて、やるべき事も中途半端になってい
るのではないかと心配ですが、でも今のとこ
ろ、子ども達と大いに遊び、一年間は勉強の
つもりでできるだけ欲ばつて何でも吸収して
おきたいと思えます。

××× ××× ×××